

早稲田大学 文学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(現代文2問、古文1問、漢文1問)
難易度	昨年並み。

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「責任」について。出典:小坂井敏晶『責任－責任概念と近代個人主義』。

《本文字数:約 3300 字＝昨年より約 400 字増加。設問数:9＝昨年より1問増加。》

小問	難易度	コメント
問一	やや難	【傍線部理解】文章全体、特に最後の3段落の内容から判断する。
問二・Ⅰ	やや難	【空欄補充】空欄Ⅰの4行前の「主体的人間像に疑問を投げかける」がヒントになる。
問二・Ⅱ	やや易	【空欄補充】空欄Ⅱの直前の文を否定する語が入る。
問二・Ⅲ	標準	【空欄補充】空欄Ⅲの直前3行から判断できる。
問三	やや難	【空欄補充】3段落前から話題が継続していることをつかめていたか?
問四	難	【整序問題】イ→ニと、ロ→ハそれぞれはつかめたとしても、その相互の前後関係の判断が難しい。指示語・接続語・キーワードを丁寧にたどる必要がある。
問五	やや難	【理由抜き出し】第5段落の「したがって～」以下の文は傍線部の言い換えになってしまう。
問六	標準	【脱文挿入】「そもそも」という表現から、脱文の問題提起の答えが直後にあると判断する。
問七	やや易	【傍線部説明】直前3行の文脈から容易に判断できる。
問八	やや易	【内容合致】消去法。他の選択肢は容易に消去できるだろう。
問九	やや易	【漢字書き取り】このレベルの漢字は落とすたくない。

(二) 評論文。「現代と中世の芸術のあり方」について。

出典:木俣元一『中世芸術に近づく、中世芸術が近づく』。

《本文字数:約 2700 字＝昨年より約 100 字増加。設問数:7＝昨年と同じ。》

問十	標準	【誤文発見】キーワード・指示語・接続語に着目して、前後の文脈に合わない文を探す。
問十一	標準	【整序問題】整序文の中のキーワード・指示語・接続語に着目し、さらに、前後の文脈とのつながりも考慮する。
問十二	やや易	【傍線部説明】傍線Aの指示語に従って、直前の2行から判断できる。
問十三	標準	【傍線部理解】傍線Ⅰを含む段落から6段落後までで判断できる。
問十四	やや易	【傍線部説明】傍線B、及び、前後の文脈から容易に判断できるだろう。
問十五	やや易	【空欄補充】直前の「芸術と人間の」という語句とのつながりから容易に判断できる。
問十六	標準	【内容合致】イは「中世も近代も全く同じ」、ニは「機能のひとつひとつを切り離して」が誤り。

(三) 古文。出典：『古本説話集』。

《本文字数：約 1250 字＝昨年より約 50 字増加。設問数：8＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問十七	やや易	【空欄補充】直後の「女もいと寒げなり」、及び、第2段落の2行目「時雨」から判断する。
問十八	やや易	【文脈把握】傍線部の「かう」の指示内容から判断する。
問十九	標準	【敬意の対象】文脈を正確につかめたかどうか問われている。
問二十	標準	【文脈把握】傍線部までの内容から「おはします」を具体化する。
問二十一	やや易	【文脈把握】「いみじ」「あてなり」は基本単語。「ながら」は逆接。
問二十二	やや難	【文脈把握】「ならはし」のニュアンス、及び、和歌の後ろの内容とのつながりから判断する。
問二十三	易	【内容合致】ハの「信仰心」「神仏の助け」は明らかに本文に書かれていない内容。
問二十四	易	【文学史】二とへはいずれも頻出の説話文学。

(四) 漢文。出典：『唐大和上東征伝』。

《本文字数：約 200 字＝昨年とほぼ同じ。設問数：4＝昨年と同じ。》

問二十五	標準	【空欄補充】「風月」はどこにあるか？
問二十六	やや難	【返り点】文意を手がかりにして丁寧に考える。
問二十七	やや難	【文脈把握】傍線部までの内容から判断する。
問二十八	標準	【内容合致】本文全体の内容から判断する。

〔総合コメント・今後の指針〕

昨年と比べて、大問三の古文が易化したが、大問一の評論文が難化したため、全体的には昨年並みの難易度であった。大問二と大問三ではかなりの高得点をとる必要があるだろう。

大問一は、「責任」についての評論文。昨年よりも難化した。文章内容がつかみにくく、設問も難しいものが多かった。問一・問三・問四・問五あたりで差がつくと思われる。問九の漢字の設問での失点は致命的。基本的な漢字に関してはマスターしておいてほしい。

大問二は、「現代と中世の芸術のあり方」についての評論文。文章内容は標準レベルなので、それほど抵抗なく読めたであろう。設問は紛らわしい選択肢は少なく、傍線部や空欄の前後の文脈だけで解ける問題がほとんどだった。ふだんから傍線部や空欄の前後をしっかりと分析するという姿勢を身につけておくといい。

大問三は、『古本説話集』。例年通り、傍線部だけで解ける問題は少なく、文脈を意識して解く問題が目立った。昨年の『栄花物語』と比べてかなり読みやすかったため、高得点が望まれる。

大問四は、『唐大和上東征伝』。昨年並みのレベルであった。大問三と同様に、文脈を理解していないと解けない問題が目立った。本学部を受験する場合は、高校の副読本や予備校のテキストに載っている句形を細かい部分までしっかりと覚えておこう。